

令和 7 年度 北海道札幌平岡高等学校 学校経営シラバス

校訓	努力 忍耐 感謝	学校教育目標	平和国家の形成者として、愛と信頼に基づく人間尊重の精神を育てる
スクール・ミッション	○ 生徒の興味・関心や進路希望等に応じて設定した科目の学習を通じて、進路実現に向けて必要な資質・能力・態度を身に付けた生徒の育成 ○ 変化する社会に対応するため、幅広い知識と教養を身に付け、他者と協働して課題解決を図ろうとする生徒の育成 ○ 人間の多様性と生命の尊重の精神に基づき、持続可能な社会の形成者の育成		
スクール・ポリシー	育成を目指す資質・能力に関する方針 自己の在り方生き方を探究するとともに、主体的に学び、他者と協働することをとおして社会性・課題解決能力や表現力を身に付け、豊かな人生を切り拓くことのできる力の育成。	教育課程の編成及び実施に関する方針 生徒の興味・関心や能力・適性・進路希望に応じて、進路実現に向けて必要な能力や態度を育成する、社会に開かれた教育課程の編成と実施。	入学者の受入れに関する方針 基本的な学力と生活習慣が身に付いており、明確な進路目標を設定し自己実現に向けて主体的に学ぶとともに、部活動や生徒会活動にも積極的に取り組む意欲にあふれた生徒。

学校経営方針	◎ 生徒一人ひとりが夢の実現に向けて生き生きと学び、逞しく生き抜く力を身に付け、成長を実感することができる学校づくりを推進する。 1 生徒一人ひとりの個性を尊重しながら能力を伸ばし、進路希望を実現する教育課程を編成し、実施する。 2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた授業改善を行う。 3 地域の教育資源等を活用し、生徒の期待に応える活力あふれる教育活動を展開するとともに、地域社会に貢献する人材を育成する。 4 教師に求められる資質能力を確実に身に付け、校内組織の活性化と教職員の同僚性と協働性を高め、協働体制を確立する。
育成すべき生徒像（重点目標）	1 教育活動に主体的に取り組み、自分の夢や目標を大切にし、達成に向けて継続的に努力する生徒（を育成する）。 2 互いを認め合い高め合うとともに、自他の生命を尊重し行動する生徒（を育成する）。 3 基本的な生活習慣や規範意識を身に付け、自律的に行動する生徒（を育成する）。 4 望ましい職業観・勤労観を身に付け、社会及び職業に円滑に移行できる生徒（を育成する）。

領域	対象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための具体的取組（評価の観点）
教育活動	学習活動	□基礎的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶに向かう意欲の育成	◇教科シラバスを踏まえた授業管理と学習指導方法の改善 ◇生徒の学習量の確保と質の向上 ◇学びに向かう態度の涵養 ◇カリキュラム・マネジメントの推進	■授業時数を確保し、教科シラバスによる授業進度・達成度等の定期的な検証を行ったか。 ■「観点別学習状況の評価」による評価方法の改善、ICTの活用も含めた授業改善、公開授業、生徒による授業評価などについて、組織的に具体的な取組を進められたか。 ■学習状況調査や模擬試験等の結果を踏まえ、生徒が日常的に学びに向かうよう、学習支援クラウドサービスの利活用を含め、家庭学習や講習、補習の時間を設定するなど、充実した学びを受けられる環境を構築できたか。 ■総合的な探究の時間の効果的な実施や読書習慣の育成等、生徒が学びに向かう姿勢を持続できるよう、知的好奇心を刺激する取組を行えたか。 ■分掌、学年、教科が連携し、スクール・ミッションの達成に向けて、具体的な取組を進められたか。
	生徒指導	□社会性や自律性を培い、多様性を尊重する、豊かであたたかい人間性の育成	◇ルールの遵守、マナーやモラルの維持・向上 ◇生徒会活動等の充実 ◇いじめ防止対策等の充実 ◇教育相談的手法を用いた指導の推進	■挨拶・遅刻指導、スマホ利用の指導、自転車運転や公共交通機関利用のマナー等の指導が、職員の共通理解のもと適切に行われたか。 ■生徒会活動、部活動、社会貢献活動等における生徒の主体的な活動が、職員の適切な支援を受けながら行われたか。 ■本校の基本方針の検証・見直し及びいじめの防止に関する取組の充実に努めるとともに、生徒の自己と他者を尊重する心を育むような指導が適切に行われたか。 ■生徒理解の上に、家庭やＳＣ・外部機関等と連携し、生徒指導に当たることができたか。
	進路指導	□自己実現を図るための自己を伸長させる力の育成	◇望ましい勤労観・職業観の育成とキャリア教育の充実 ◇進路希望を実現するための進路学習等の充実	■学年や教務部等と連携し、進路行事の充実及び進路業務の共有化を図るとともに、対話力や課題発見力・解決力の向上を図り、指導の充実につなげることができたか。 ■最新進路情報の提供及び模擬試験や講習を適切に実施するとともに、学習支援クラウドサービスの利活用や進路だよりの発行等、計画的・効果的な取組が実施できたか。
	健康・安全指導	□自他の生命を尊重できる態度の育成	◇個別支援体制の充実 ◇自己管理能力の向上 ◇危機管理体制の向上	■教育相談、特別指導等における組織的な支援や指導内容の検討など、持続可能な個別支援体制の在り方について検討を進めることができたか。 ■学年等と連携し、自他の健康課題に興味・関心を持たせ、自己管理能力の育成を図ることができたか。また、組織的かつ適切に支援することができたか。 ■安心・安全な学校生活を送るための危機管理体制の点検、見直しを実施するとともに、災害非常時における対応について、意識を高めることができたか。

学校運営	信頼される学校づくり	□保護者及び地域等との協働	◇学校評価の活用 ◇地域や保護者等への積極的な情報発信 ◇保護者のニーズの適切な把握	■学校評価を真摯に受け止め、改善につなげることができたか。 ■保護者等を対象とした授業公開や、地域や保護者のニーズにスピード感をもって、情報発信・情報提供ができたか。 ■保護者と接する機会を増やすなど、日常的に、保護者のニーズを把握することに努めたか。
	組織運営	□学校課題の共有及び課題解決に向けた協働体制の確立	◇会議等の効率化 ◇組織的・機能的な協働体制の確立 ◇働き方改革への取組	■ICT機器の活用、資料の事前配布、説明の簡略化など、目的を明確化した効率的な会議となっているか。 ■職員連携のもと、円滑で組織的に業務を遂行することができているか。そして、組織や構成等について、校内体制の改善に向けた検討が行われたか。 ■職員の意見を積極的に取り入れながら、「個業」によらない学校組織体制の整備を図ることができたか。
	教職員の資質能力向上	□教職員としての自覚と責任の共有	◇授業研究・校内外研修の推進 ◇良好な職場環境の構築 ◇教育公務員としての服務規律の遵守	■教職員自身が「学び、学び合う」ことができているか。生徒への指導が、生徒の学びに適切に繋がっているか否かを、常に振り返り検証しているか。 ■職場でのコミュニケーションが活性化し、同僚性と協働性を高め、働きやすく不祥事が起こりにくい職場環境になっているか。 ■日常的な情報提供等により、公務員としての服務規律の厳守に係る意識を高めることができていくか。